

卒業後の進路を考える大事な時期での講演です。 「技術士を知ろう！ 北海学園大学(3年生)」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営担当している「技術士を知ろう！」の第7弾です。

今回は、平成20年から継続実施している北海学園大学の3年生を対象に実施しました。

今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て実施しています。

北海学園大学での「技術士を知ろう！」講演は、3年前より1年生を対象にした「技術士を知ろう！」講演も継続開催しているため、今回受講してくれた学生さんとは3年振り2度目の再会となりました。

2. 実施概要

開催日時：2019.11.15(金)16:00～17:30

講義内容：技術資格の説明、技術士とは？

技術士の仕事内容と役割(講演2編)

社会環境工学の仕事

対象者：北海学園大学 社会環境工学科

3年生：17名、2年生：1名

参加幹事：小澤、木本、千葉(記)(ミライ研3名)、

西村、斉藤、岡本(青技交3名)

3. 技術資格の説明、技術士とは？

司会進行を務めるのは、最近北海道の建設業界をざわつかせているミライ研の木本幹事長です。

周囲の不安をよそに、いつもと変わらぬ巧みな話術と優しい語り口が、会場の雰囲気落ち着かせます。続いて登場したのが千葉技術士(筆者)です。

自身の身の上話を織り交ぜながら、技術士資格の説明、技術士の役割、資格を持つことのメリット、社会人になってからの仕事をする上での重要性等の説明を行いました。

中でも学生達が最も興味があったのは、資格別の平均年収と平均年齢の散布図だったようです。



写真-1 冒頭の概説を行う千葉技術士

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(小澤技術士)

具体的な仕事内容の紹介の1人目は、北電総合設計の小澤技術士から、土質および基礎のコンサルタントの仕事内容を紹介しました。

自身が携わった設計事例から、技術士が兼ね備えている「問題点の明確化」、「課題の抽出」、「技術的成果」について、具体例を示しながらの講演でした。

学生達からのアンケート結果では、「これまで学校で学んできた知識が、具体的な設計に繋がっていることを知ることができた」等の意見があり、学校と業界との繋がりについても、改めて認識する機会になったと思います。



写真-2 技術士に求められる資質を語る小澤技術士

(2) 技術士の仕事(斉藤技術士補)

同校 OB の斉藤技術士補からは、土木系コンサル、公共交通分野の技術者の仕事の講演を行いました。

自身が学生時代にこの講演を聞いていた過去も振り返りながら、学生時代に色々な人とコミュニケーションを図ることの必要性や、常に新しいことに挑戦し続けることの重要性を語っていました。

さらに自身が筆記試験に合格し、口頭試験に向けて勉強中であることを明かしつつ、「自ら勉強して学ぶ」事の大切さを語っていた姿に、学生達も大いに感銘を受けていたようです。



写真-3 諦めない姿勢を体現する斉藤技術士補

5. 社会環境工学の仕事

最後の講演は西村技術士より、大学卒業後の仕事や働き方等を紹介しました。

学校での授業が、私たちの生活している社会と深く関係している事例を解説しつつ、また、同校 OB らしく「ONE TEAM」をサブテーマに掲げ、一人ではできないことがあっても、仲間(チーム)が一つになれば、最強タッグができると熱く語っていました。



写真-4 トレンドに敏感な西村技術士

6. 座談会

講演会後には、学園大講演では恒例となりつつある学生達との座談会の場を設けました。

時間が遅かったこともあり、参加学生数は少なめでしたが、ぶっちゃけトーク等も飛び出し、学生達の将来への不安が、少しは取り除けたかと思えます。

7. まとめ

学生からの感想には「技術士を取得したいという気持ちが大きくなった。」「技術士の試験を受けることも視野に入れて就活したい。」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。

講演を聞きに来た学生の多くは3年生でしたが、2年生が参加していたのには、学生の意識の高さを垣間見た気がしました。

アンケートでは、18人中14人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、18人中15人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれていました。

また、「就職について不安だったのですが、一歩踏み出すことができそうです。」「自分の進路に関して、一定の目標を持つ事が重要だと改めて感じました。」といった感想も頂きました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でともに4.2と学生に高評価であったことも一因だったのでは、と考えています。

8. おわりに

講演前の先生との事前打ち合わせでは、学生の参加人数は80名程度と言われていましたが、実際には20名弱という厳しい結果が待っていました。

この原因は、同時帯に教職課程の授業があったことが強く影響しており、現状の資格の知名度という点では、教員資格の方が認知されているという結果だと分析しています。

今後もミライ研の活動を通じて、技術士資格の重要性や知名度向上に努力したいと思います。

講演にあたり小幡教授を始め北海学園大学関係者の皆様には、大変お世話になりました。

引き続き皆様方からのご指導、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。